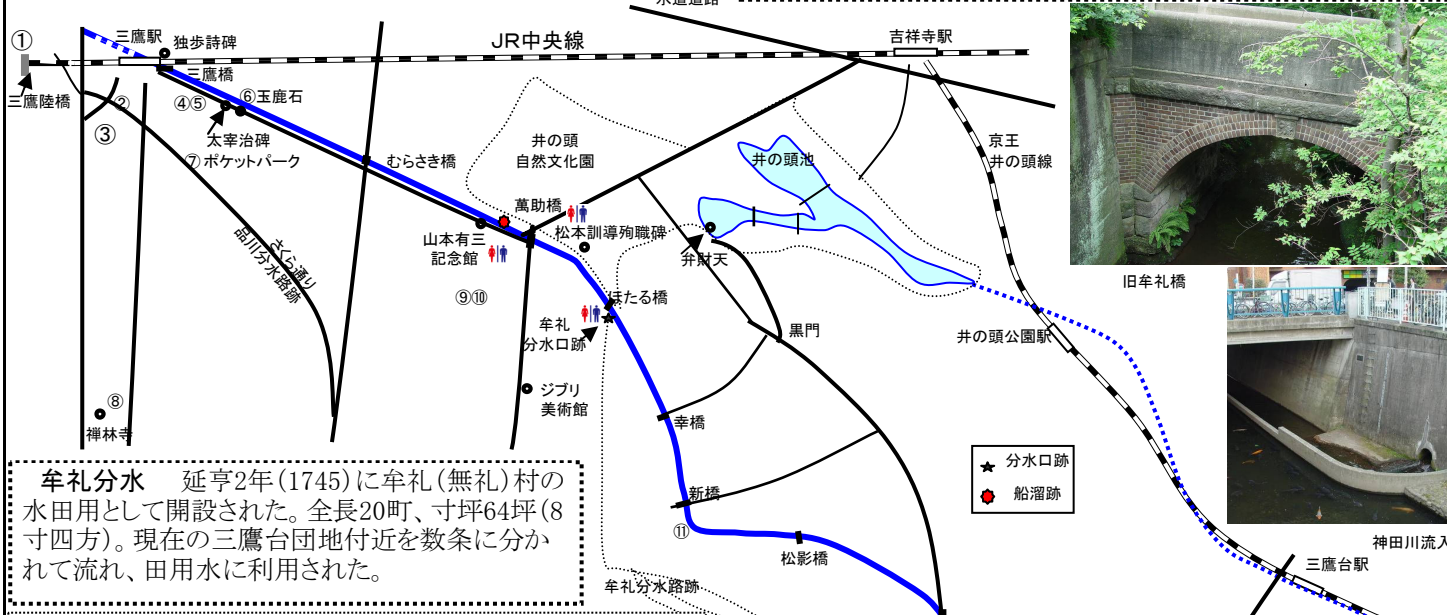


# 散歩ガイドマップ

## 三鷹から富士見ヶ丘駅

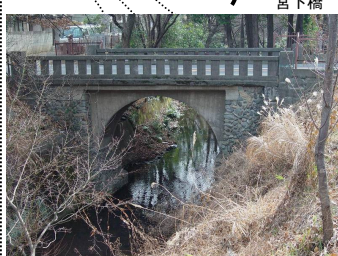
三鷹駅から富士見ヶ丘駅まで約5.8キロ



**牟礼分水** 延享2年(1745)に牟礼(無礼)村の水田用として開設された。全長20町、寸坪64坪(8寸四方)。現在の三鷹台団地付近を数条に分かれて流れ、田用水に利用された。

### 太宰治ゆかりの地 (地図上の丸数字)

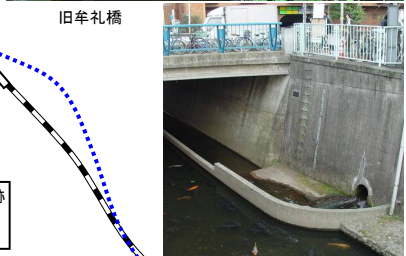
- ①三鷹陸橋 太宰お気に入りの跨線橋。黒マント姿の写真が有名。昭和4年に竣工。当時のまま今も残る。
- ②駅前郵便局 原稿料の受け取りなどに利用したとされ。作品にも登場する。
- ③中鉢家跡 昭和21年、3ヶ月間2階を仕事部屋に借り、「ヴィヨンの妻」などをを書く。
- ④千草跡 太宰が通いつめた小料理屋「千草」があった。2階は仕事部屋にも使っていた。
- ⑤野川家跡 2階を山崎富栄が間借りしていた。仕事部屋にも使われる。太宰との死への旅立ちはこちらから。
- ⑥玉鹿石 入水場所付近に置かれた生地・金木村産の石。
- ⑦三鷹文学サロン 三鷹市は没後60年・生誕100年記念事業とし、太宰がよく酒を買った「伊勢元酒店」の跡地に開設。
- ⑧禅林寺 太宰の尊敬した森鷗外の墓の斜め向かいに太宰も眠る。6月19日の桜桃忌には太宰ファンが集う。
- ⑨太宰治旧居跡 三鷹時代を過ごした家の跡。6畳、4畳半、3畳の3間。同じ造りの平屋の家が畑の中に3軒並んでいた。
- ⑩みたか井心亭 三鷹市の和風文化施設。太宰宅の庭にあった「百日紅」が移植されている。
- ⑪新橋 この橋の下流・右岸で抱き合った二人の遺体が発見された。
- ⑫久我山水衛所 入水後二人の下駄が片方ずつ流れ着く。



**烏山(烏山村)分水・北沢(上北澤村)分水**  
**烏山分水** 万治2年(1659)烏山村など10ヶ村(粕谷村、廻り沢村、船橋村、経堂在家村、世田谷村、若林村、太子堂村、三宿村、八幡山村)への水田用水として引かれた。全長1里半水口寸坪25坪(5寸四方)、開設当初の取水口は1尺四方烏山村内とあるが詳細は不詳、天明8年に上高井戸村内に移設された。  
**北沢分水** 万治元年上北沢村など5ヶ村(赤堤村、世田谷村、松原村、代田村)への水田用水として引かれた。全長1里半水口寸坪100坪(1尺四方)開設当初の取水口は1尺4寸四方で北沢村牛窪に設けられ、天明8年(1788)上高井戸村に移設された。ともに明治4年(1871)、通船開始に伴い現在地に移設された。

### 神田上水の水源 井の頭池

井の頭池は三鷹市と武蔵野市にまたがる面積4万3,000平方メートルの池。神田川の水源となる。徳川家康は天正18年(1590)関東入国後、家臣に命じて井の頭池の水を水源とし、神田、日本橋、京橋方面に給水。これが神田上水。

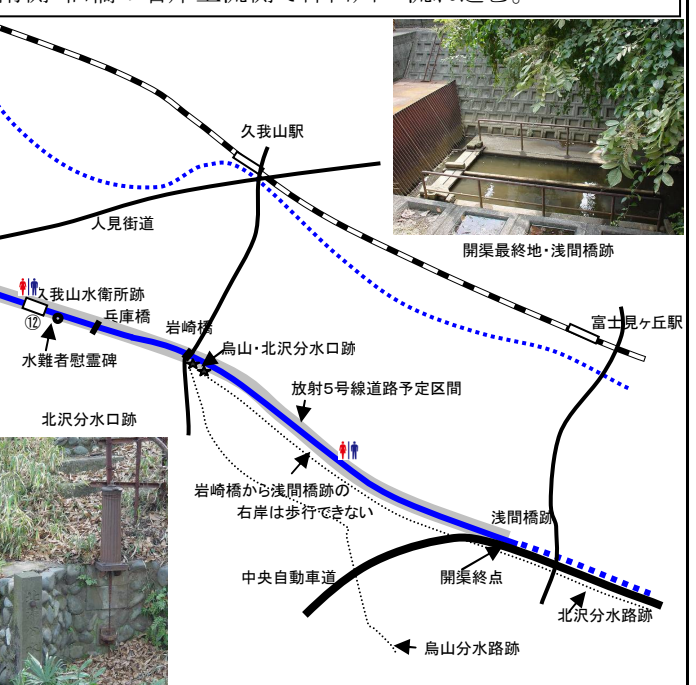


**宮下橋と牟礼神社**  
 明治年間からある古い橋。橋の南西側約150mに神明社がある。このお宮の下にある橋から橋名がつけられたとされる。  
**牟礼神社** この付近は三鷹市内では一番の高台(標高60m)で、古くは高番山とも呼ばれ、富士山も望める。戦国時代に砦が築かれ、陣内の鎮護のためお宮が祀られた。境内に寛永3年(1850)に建立された**巳待講燈籠**(三鷹市重宝)がある。この灯籠は井の頭弁財天への道しるべと、村内安全祈願を兼ねたもので竜の浮き彫りが施されている。もとは人見街道沿いにあったが昭和44年現在地に移転された。

**旧牟礼橋**  
 上水記に「久我山橋・玄蕃橋共云」との名が残る古い橋。宝暦7年(1757)架橋。現在の橋は昭和8年(1933)の架設。久我山村では「牟礼橋」、三鷹村では村の一番東にあるところから「東橋」とも呼ばれた。また、豊かな水量から通称「**どんどん橋**」とも呼ばれ親しまれていた。橋台は石積みアーチ橋で、アーチ部にはレンガタイルが張られている。現在は歩行のみ可能である。橋際に「石橋建立供養之碑」がある。

**開渠最終地**  
 旧浅間橋手前(杉並区久我山1丁目)で玉川上水は暗渠となる。この先四ツ谷大木戸まで、約13kmの区間は、代田橋駅付近と笹塚駅付近(3箇所合計約550mの区間)を除き、全て暗渠の排水路となり地下に埋められた。なお地上部は高速道路、緑道や公園などに利用されている。

暗渠となった玉川上水は、しばらく旧水路下を通り、中の橋交差点から環状8号線沿いに北上、京王井の頭線・高井戸駅南側・佃橋の右岸上流側で神田川へ流れ込む。



## 玉川上水 と 太宰治

玉川上水、その名前は知らなくても、太宰治が入水心中した場所といえば全国的にも有名では・・・

太宰治は31歳から終戦前後の疎開を除き1939年(昭和14)から自らの命を絶つ1948年(昭和23)までを三鷹で暮らした。

代表作の「津軽」や「斜陽」、「人間失格」など作品の大半は三鷹時代に生まれ、仕事場や作品にその名が登場するなど、玉川上水周辺にゆかりの場所が残っている。

現在は処理水が僅かに流れる玉川上水も、太宰が入水した当時、素堀りの水路は水量多く、流れは急で水面下の岸が掘られ謎の洞穴が随所にあった。これにかかるると死体も中々見つからず「人食い川」とも呼ばれた。身投げ者も多く太宰がこの年16番目とされ、太宰の捜索中にも半年前の別の女性の死体が見つかった。前年は33人に及ぶなどいわくつきの流れでもあった。水道局では水死人があるたび水を減らして捜索した。

太宰の遺体も7日後に、約1.4キロ下流の「新橋」付近で発見された。



撮影 田村茂

一九四八年(昭和二十三年)六月  
太宰治は近くの玉川上水で自ら  
その三十九年の生涯を終えた。

太宰 治「乞食学生」より

四月なかば、ひるごろの事である。  
頭を挙げて見ると、玉川上水は深く  
ゆるゆると流れて、兩岸の桜は、も  
う葉桜になっていて真青に茂り合い  
青い枝葉が両側から覆いかぶさり、  
青葉のトンネルのようである。……

入水地近くのポケットパークにある 太宰治碑から

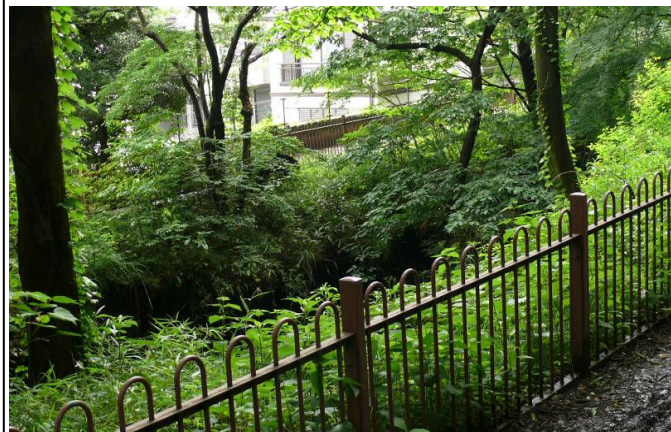
## 「井の頭」の名付親は三代将軍家光

当初井之頭池は池の中に湧き水が7カ所あったので「七井の池」と呼ばれていた。『江戸名所図会』によると、寛永6年(1629)春、三代将軍家光が鷹狩りの折、この地を訪れた際、池の名前を尋ねたので「七井の池」と答えたところ、家光は池の近くの辛夷の樹に小柄で、「井の頭」と彫り付けた。以後、この池を「井の頭池」と称するようになったという。即ち、泉水の第1等の池という意味である。

## 迫る神田川の谷を避ける玉川上水

小平監視所付近から武蔵野段丘の多摩川と荒川の分水嶺をほぼ直線に流れる玉川上水は、三鷹駅を過ぎ井の頭公園付近の萬助橋から下流に入ると、しばらくの間流路が複雑に蛇行する。

これは玉川上水の左岸にある井の頭池、そこから流れ出る神田川の谷が迫るためである。特に「新橋」を越えると右岸は小高い丘が迫り、左岸は神田川方向へ急傾斜になっている。自然流下の水路は北側の谷を避け、斜面に沿って左右にカーブしながら長兵衛橋まで辿り着く。この区間の水路は深く掘られ、また右岸(南側)に比べて左岸がかなり低くなっている。



右岸(手前)に比べて左岸が低くなっている(松影橋付近)

## 迫る大型道路・玉川上水をサンドイッチ

牟礼橋から下流は玉川上水沿いに放射5号線の道路工事が開始される。片側17.5m幅の道路に挟まれ、中央部に25m幅の水路が残されるとか・・・。



道路計画のお知らせ板(↑) 当然ながら反対運動が(↓)



## 玉川上水ワンポイントガイド No. 16

### 散歩ガイド 三鷹駅から富士見ヶ丘駅



レンガアーチ橋の旧牟礼橋(手前)と牟礼橋 その先は道路に・・・

## シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

1. 玉川上水の概要
2. 玉川上水の分水
3. 玉川上水の分水・小平編
4. 玉川上水と小平周辺の新田開発
5. 玉川上水の橋
6. 玉川上水の水車
7. 玉川上水の通船・船溜り
8. 玉川上水の樹木・野草・野鳥
9. 玉川上水と小金井サクラ
10. 玉川上水あれこれ
11. 玉川上水お勧め散歩ガイド
12. 玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅
13. 玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅

No.	テーマ
14	玉川上水散歩ガイド 羽村駅から拝島駅
15	玉川上水散歩ガイド 拝島駅から玉川上水駅
16	玉川上水散歩ガイド 三鷹駅から富士見ヶ丘駅
17	玉川上水散歩ガイド 富士見ヶ丘駅から代田橋駅
18	玉川上水散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅
19	小平市内の用水分岐水門・分岐口めぐり
20	小平市内の石橋供養塔めぐり
発行 2009年4月 No1~No13発行済	

発行 小平・玉川上水再々発見の会  
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp  
代表 庄司徳治